

聖霊のバプテスマ ①

1A 「聖霊のバプテスマ」の約束 使徒 1:8

1B ヨハネのバプテスマに次ぐ約束 使徒 1:4-5

2B 新生とは別個の体験 ヨハネ 20:22

3B 三つの前置詞 ヨハネ 14:17

2A 聖霊のバプテスマの記録 使徒 2 章以降

1B 今にまで続く約束 2:39

2B サマリヤにて 8:17

3B 使徒パウロ 9:17

4B 異邦人コルネリオ 10:45

5B エペソ 19:6

6B それぞれ異なる体験

本文

聖霊の学びシリーズですが、これから私たちは聖霊のバプテスマを学びたいと思います。

1A 「聖霊のバプテスマ」の約束 使徒 1:8

1B ヨハネのバプテスマに次ぐ約束 使徒 1:4-5

聖霊のバプテスマの約束は、福音書の初め、バプテスマのヨハネの説教からすでにありました。「ルカ 3:15-17 民衆は救い主を待ち望んでおり、みな心の中で、ヨハネについて、もしかするとこの方がキリストではあるまいか、と考えていたので、ヨハネはみなに答えて言った。「私は水であなたがたにバプテスマを授けています。しかし、私よりもさらに力のある方がおいでになります。私などは、その方のくつのひもを解く値うちもありません。その方は、あなたがたに聖霊と火とのバプテスマをお授けになります。また手に箕を持って脱穀場をことごとくきよめ、麦を倉に納め、殻を消えない火で焼き尽くされます。」そして、ヨハネは他の箇所でも、この約束について証言しています。「ヨハネ 1:32-34 御霊が鳩のように天から下って、この方の上にとどまられるのを私は見ました。私もこの方を知りませんでした。しかし、水でバプテスマを授けさせるために私を遣わされた方が、私に言われました。『聖霊がある方の上を下って、その上にとどまられるのがあなたに見えたなら、その方こそ、聖霊によってバプテスマを授ける方である。』私はそれを見たのです。それで、この方が神の子であると証言しているのです。」水のバプテスマをヨハネが授けている時に、イエス様の上に聖霊が下られるのを見て、この方が後に聖霊のバプテスマを授けることを知りました。

そして、イエス様がよみがえられ弟子たちにご自分の生きていることをお見せになり、こう語られたのです。「イエスは苦しみを受けた後、四十日の間、彼らに現われて、神の国のことを語り、数多くの確かな証拠をもって、ご自分が生きていることを使徒たちに示された。彼らといっしょにいる

とき、イエスは彼らにこう命じられた。「エルサレムを離れないで、わたしから聞いた父の約束を待ちなさい。ヨハネは水でバプテスマを授けたが、もう間もなく、あなたがたは聖霊のバプテスマを受けるからです。」(使徒 1:3-5) この父の約束とは、ヨエルが預言した、「すべての人にわたしの霊を注ぐ」(ヨエル 2:28)の約束でした。

2B 新生とは別個の体験 ヨハネ 20:22

ここから私たちが知ることができるのは、「聖霊のバプテスマ」と正確に呼ぶことのできる体験があるということです。聖霊の体験というと、新生体験があります。イエスを信じる時に与えられる体験です。「ヨハネ 3:3 イエスは答えて言われた。「まことに、まことに、あなたに告げます。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」そして、御霊によって霊が新しく生まれるとイエス様はニコデモに言われ、このことによって人は神の子供になり、神の国を相続することができます。

けれども、その体験とは異なるものであることは、ヨハネ 20 章から分かります。イエス様がよみがえられ、弟子たちの間に現われて、「平安があるように。」と言われました。そしてこうも言われたのです。「ヨハネ 20:22 そして、こう言われると、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。」息を吹きかけるというのは、神がかつてアダムに行われたことと同じです。神の息はそのまま神の御霊です。したがって、ここで弟子たちは御霊を実際に受けて、新しく生まれたのです。聖霊がすでに内に住んでくださり、その上で先ほど読んだ、ヨハネのバプテスマの次に、聖霊のバプテスマを授けるということ、仰ったのです。

続けて使徒の働き 1 章 8 節を読むと、この体験が、人を神の子供にする新生体験とは異なることを教えています。「しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。」聖霊のバプテスマは力を与えますが、その力はイエスを証する力であり、自分の内側での変化ではなく、外に向かう力です。

聖霊のバプテスマは新生体験と同じである、とする人々もいます。その人たちが取り上げる箇所は、コリント第一 12 章 13 節です。「なぜなら、私たちはみな、ユダヤ人もギリシヤ人も、奴隷も自由人も、一つのからだとなるように、一つの御霊によってバプテスマを受け、そしてすべての者が一つの御霊を飲む者とされたからです。」これが聖霊のバプテスマだということです。けれども、ここで大事なことは、「バプテスマ」という言葉は「浸す」とか「漬ける」という意味であり、特別な用語ではないということです。ヨハネのバプテスマがありましたが、それは、ヨハネが罪を悔い改めて、神の怒りから逃れなさい、と言ったそのメッセージの中に自分をいっしょにする、という意味がありました。水の中に入ることによって、ヨハネの語る神の悔い改めの中に入ってしまったのです。

そして、イエスの御名によるバプテスマというのがあります。あるいは、御父、御子、聖霊の名に

よるバプテスマです。これは、イエスが死なれて、よみがえられたそのことに自分を結びつける、キリストに結ばれた者として、罪に対して自分は死に、キリストがよみがえられたように新しい歩みをすることを意味しています。ここではバプテスマを授けるのは、キリストの弟子です。多くの場合、教会の牧師が授けていますね。そして水が媒体です。その水が、キリストと共に罪に支配された自分が死に、キリストと共によみがえることを示しています。

では、ここコリント第一 12 章 13 節はどうなのでしょう？バプテスマを授けるのは、御霊ご自身です。御霊によってバプテスマを受けるのです。そして、媒体はキリストのからだです。御霊が私たちがキリストを信じた時にキリストの体の一部にしてください、という意味です。しかし聖霊のバプテスマは違います。イエスがバプテスマを授ける方です。そして、聖霊ご自身が媒体であります。聖霊に私たちが浸かる、浸されるのです。それをイエスが行われます。

3B 三つの前置詞 ヨハネ 14:17

聖霊と私たちとの関係を表すのに、鍵となる三つの前置詞があります。イエス様が捕えられる夜に、弟子たちと最後の晩餐を取られた後で語られた言葉ですが、「ヨハネ 14:16-17 わたしは父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主がいつまでもあなたがたと、ともにおられるためにです。その方は、真理の御霊です。世はその方を受け入れることができません。世はその方を見もせず、知りもしないからです。しかし、あなたがたはその方を知っています。その方はあなたがたとともに住み、あなたがたのうちにおられるからです。」

ここで、「あなたがたと共に住む」と言われています。この前置詞がパラ(para)です。そして、聖霊は「あなたがたのうちにおられる」とイエス様は言われます。この前置詞がエン(en)です。先ほど、ヨハネ 20 章でイエス様が息を吹きかけられた時に、すでに与えられた関係です。聖霊が共におられることについては、私たちはヨハネ 16 章ですでに、世に誤りを認めさせる働きのところ学びました。罪について、義について、さばきについて世に誤りを認めさせるけれども、それは十字架につけられたキリストを聖霊が証しされるということです。これは信仰を持つ前に、すでに神がご自分の御霊で私たちに証ししてくださいましたことです。そして、コリント第一 12 章では、聖霊によらなければ「イエスを主」と呼ぶことができない、とあるので、このように信仰に至ったのは聖霊の働きに拠るのです。

そして聖霊は内に住んでくださいます。「1コリント 6:19 あなたがたのからだは、あなたがたのうちに住まれる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたは、もはや自分自身のものではないことを、知らないのですか。」ですから、聖霊が内に住んでくださるので、キリストが内に住んでくださり、キリストが住まわれていますから父なる神も私たちの内におられます。こんなにすごい、キリストの栄光の奥義が私たちに示されました。

しかし、先ほど読んだ使徒の働き 1 章 8 節には、「聖霊があなたがたの上に臨まれる」とあります。上に、という言葉です、パラ(epi)という前置詞です。聖霊が上から臨まれ、私たちを強く導き、私たちではなく聖霊ご自身がご自分の力を証しされます。イエス様の証しのために、また主に仕える奉仕のために、それを行なうのに必要な力を与えるのです。ですから、内なる御霊が私たちを満たされるだけでなく、私たちを通して他の人々がキリストに触れることとなります。

2A 聖霊のバプテスマの記録 使徒 2 章以降

1B 今にまで続く約束 2:39

では、聖霊との関係に入った弟子たちの記録を見ていきたいと思います。使徒の働き 2 章を見てください。

2:1 五旬節の日になって、みなが一か所に集まっていた。2:2 すると突然、天から、激しい風が吹いてくるような響きが起こり、彼らのいた家全体に響き渡った。2:3 また、炎のような分かれた舌が現われて、ひとりひとりの上にとどまった。2:4 すると、みな聖霊に満たされ、御霊が話させてくださるとおりに、他国のことばで話した。

五旬節は、過越の祭りの五十日後に行われる祭りです。小麦の初穂を捧げます。ユダヤ教とは、エジプトから出てシナイ山で律法が与えられたことを記念します。けれども、その時に人々が聖霊に満たされました。そしてその特徴は、外国の言葉をそれぞれが語ったことです。

2:5 さて、エルサレムには、敬虔なユダヤ人たちが、天下のあらゆる国から来て住んでいたが、2:6 この物音が起こると、大ぜいの人々が集まって来た。彼らは、それぞれ自分の国のことばで弟子たちが話すのを聞いて、驚きあきれてしまった。2:7 彼らは驚き怪しんで言った。「どうでしょう。いま話しているこの人たちは、みなガリラヤの人ではありませんか。2:8 それなのに、私たちめいめいの国の国語で話すのを聞くとは、いったいどうしたことでしょう。2:9 私たちは、パルテヤ人、メジヤ人、エラム人、またメソポタミヤ、ユダヤ、カパドキヤ、ポントとアジヤ、2:10 フルギヤとパンフリヤ、エジプトとクレネに近いリビヤ地方などに住む者たち、また滞在中のローマ人たちで、2:11 ユダヤ人もいれば改宗者もいる。またクレテ人とアラビヤ人なのに、あの人たちが、私たちのいろいろな国ことばで神の大きなみわざを語るのを聞こうとは。」

ユダヤ人は、バビロン捕囚以降、離散の民がいました。世界中に散らばってそこに住んでいます。けれども主は、成年男子は年に三度の祭り、過越、五旬節、仮庵を守るためにエルサレムに上ることを命じておられました。それで彼らが世界中から来ているのです。けれども、彼らはそこに住む言語も知っており、またヘブル語も知っていました。その地域の言語をもって弟子たちは神を賛美していました。その意味する所は、「すべての民が神を賛美する」ということです。全ての人が、それぞれの言語で神を賛美することを神は、前もって示すしるしとして与えた出来事です。

2:12 人々はみな、驚き惑って、互いに「いったいこれはどうしたことか。」と言った。2:13 しかし、ほかに「彼らは甘いぶどう酒に酔っているのだ。」と言ってあざける者たちもいた。2:14 そこで、ペテロは十一人とともに立って、声を張り上げ、人々にはっきりとこう言った。「ユダヤの人々、ならびにエルサレムに住むすべての人々。あなたがたに知っていただきたいことがあります。どうか、私のことばに耳を貸してください。2:15 今は朝の九時ですから、あなたがたの思っているようにこの人たちは酔っているではありません。2:16 これは、預言者ヨエルによって語られた事です。2:17 『神は言われる。終わりの日に、わたしの霊をすべての人に注ぐ。すると、あなたがたの息子や娘は預言し、青年は幻を見、老人は夢を見る。2:18 その日、わたしのしもべにも、はしためにも、わたしの霊を注ぐ。すると、彼らは預言する。2:19 また、わたしは、上は天に不思議なわざを示し、下は地にしるしを示す。それは、血と火と立ち上る煙である。2:20 主の大きい輝かしい日が来る前に、太陽はやみとなり、月は血に変わる。2:21 しかし、主の名を呼ぶ者は、みな救われる。』

ぶどう酒に酔っているように見えたが、ペテロはヨエルの預言を引用します。その特徴は、すべての人が霊を受けることです。どんな人も、老人であろうが、若者であろうが、男女関係なく、主が御霊を注がれます。そしてもう一つの特徴は、そのまま大患難時代に入ることです。つまり、聖霊が注がれて全ての人に注がれて、そして人々が救いに預かり、神の怒りから免れるという福音の言葉なのです。バプテスマのヨハネが神の怒りからの救いを宣べ伝えましたが、それは聖霊のバプテスマがあって、その時代の後に起こります。

そしてペテロは、「あなたがたが十字架につけたイエスを、死者の中から神がよみがえらせたのです。」と説き、そして彼らは心刺されました。どうすればよいですか？と尋ねたら、こう勧めています。「38 そこでペテロは彼らに答えた。「悔い改めなさい。そして、それぞれ罪を赦していただくために、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けるでしょう。39 なぜなら、この約束は、あなたがたと、その子どもたち、ならびにすべての遠くにいる人々、すなわち、私たちの神である主がお召しになる人々に与えられているからです。」悔い改めて、罪の赦しを得て水のバプテスマを受けます。そして、聖霊が与えられるというのです。聖霊のバプテスマです。そして大事なはこの約束について、です。その子供たち、また遠くにいる人々、神がお召しになるすべて人々に与えられている、というのです。ということは、二千年後の極東に住んでいる私たちにも、この約束は有効であるということです。

2B サマリヤにて 8:17

そして弟子たちは力強く福音を伝えて行きました。迫害があっても、彼らはかえって喜び、主をほめたええました。エルサレム中が福音でいっぱいになりました。そして、ステパノの殉教によって聖徒たちが散り散りになります。けれども、その離れた場所で福音を伝えていったのです。そこで、サマリヤの地域での話に移ります。「14 さて、エルサレムにいる使徒たちは、サマリヤの人々が神のことばを受け入れたと聞いて、ペテロとヨハネを彼らのところへ遣わした。15 ふたりは下って

行って、人々が聖霊を受けるように祈った。16 彼らは主イエスの御名によってバプテスマを受けていただけで、聖霊がまだだれにも下っておられなかったからである。17 ふたりが彼らの上に手を置くと、彼らは聖霊を受けた。」

大事ですね、一つはこの後に魔術師シモンが、聖霊を受けることができるように金でそれを買おうとしていました。つまり、何らかの明らかに徴があったのです。そしてもう一つは、サマリヤの人々はこの前にすでにバプテスマを受けていたことです。つまりイエスを主と信じて、告白していたのです。だから聖霊は内住していました。けれども、さらに聖霊のバプテスマを受けたのです。

3B 使徒パウロ 9:17

そして迫害していたパウロが、受けます。「10 さて、ダマスコにアナニヤという弟子がいた。主が彼に幻の中で、「アナニヤよ。」と言われたので、「主よ。ここにおります。」と答えた。11 すると主はこう言われた。「立って、『まっすぐ』という街路に行き、サウロというタルソ人をユダの家に尋ねなさい。そこで、彼は祈っています。12 彼は、アナニヤという者がはいて来て、自分の上に手を置くと、目が再び見えるようになるのを、幻で見たのです。」13 しかし、アナニヤはこう答えた。「主よ。私は多くの人々から、この人がエルサレムで、あなたの聖徒たちにどんなにひどいことをしたかを聞きました。14 彼はここでも、あなたの御名を呼ぶ者たちをみな捕縛する権限を、祭司長たちから授けられているのです。」15 しかし、主はこう言われた。「行きなさい。あの人はわたしの名を、異邦人、王たち、イスラエルの子孫の前に運ぶ、わたしの選びの器です。16 彼がわたしの名のために、どんなに苦しまなければならないかを、わたしは彼に示すつもりです。」17 そこでアナニヤは出かけて行って、その家にはいり、サウロの上に手を置いてこう言った。「兄弟サウロ。あなたが来る途中でお現われになった主イエスが、私を遣わされました。あなたが再び見えるようになり、聖霊に満たされるためです。」18 するとただちに、サウロの目からうろこのような物が落ちて、目が見えるようになった。彼は立ち上がって、バプテスマを受け、19 食事をして元気づいた。サウロは数日の間、ダマスコの弟子たちとともにいた。」

サウロはすでに「主よ」とイエス様を呼んでいました。救われていたのです。けれども、聖霊に満たされるように弟子アナニヤが祈り、彼は聖霊に満たされました。そして水のバプテスマも受けています。

4B 異邦人コルネリオ 10:45

そして初代教会にとっての、大きな徴は異邦人が聖霊のバプテスマを受けたことです。「10:44 ペテロがなおもこれらのことばを話し続けているとき、みことばに耳を傾けていたすべての人々に、聖霊がお下りになった。10:45 割礼を受けている信者で、ペテロといっしょに来た人たちは、異邦人にも聖霊の賜物が注がれたので驚いた。10:46 彼らが異言を話し、神を賛美するのを聞いたからである。そこでペテロはこう言った。10:47 「この人たちは、私たちと同じように、聖霊を受けたのですから、いったいだれが、水をさし止めて、この人たちにバプテスマを受けさせないようにする

ことができましょうか。』」

コルネリオたちは、異言を話したり、神を賛美していました。このようなしるしによって、彼らが聖霊に満たされたことが分かりました。それで水のバプテスマを受けています。水のバプテスマの前に聖霊のバプテスマを受けているのです。

5B エペソ 19:6

そしてパウロの宣教旅行、エペソでの出来事です。「19:1 アポロがコリントにいた間に、パウロは奥地を通過してエペソに来た。そして幾人かの弟子に出会って、19:2 「信じたとき、聖霊を受けましたか。」と尋ねると、彼らは、「いいえ、聖霊の与えられることは、聞きもしませんでした。」と答えました。19:3 「では、どんなバプテスマを受けたのですか。」と言うと、「ヨハネのバプテスマです。」と答えました。19:4 そこで、パウロは、「ヨハネは、自分のあとに来られるイエスを信じるように人々に告げて、悔い改めのバプテスマを受けたのです。」と言った。19:5 これを聞いたその人々は、主イエスの御名によってバプテスマを受けた。19:6 パウロが彼らの上に手を置いたとき、聖霊が彼らに臨まれ、彼らは異言を語ったり、預言をしたりした。19:7 その人々は、みなで十二人ほどであった。」

「信じた時、聖霊を受けましたか。」と尋ねています。つまり、彼らは信じていました。そしてヨハネのバプテスマだけを受けていたと言っています。それでイエスの名によるバプテスマを受けました。これは水のバプテスマです。そして手を置いた時に、聖霊が臨まれました。彼らはここで異言、そして預言を語りました。パウロは、彼らを初めに見た時に、本当にキリスト者なのかというその輝きを見ることができなかつたのかもしれない。明らかに新生の後の聖霊の働きであります。

6B それぞれ異なる体験

いかがでしょうか、ざっと見てきましたが、聖霊のバプテスマは一貫した特徴はある、はっきりとした体験であることが分かりました。同時に、しるしが必ずしも伴っていない場合もありました。パウロは、目からうろこが取れた、という部分だけでした。異言も預言もありません。ですから、それぞれが聖霊のバプテスマを受けるその方法は違います。大事なことは聖霊ご自身を求めることです。